



2026年9月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年8月6日

上場会社名 株式会社ツナググループ・ホールディングス 上場取引所 東
コード番号 6551 URL <https://tghd.co.jp>
代表者 (役職名) 代表取締役兼執行役員社長 (氏名) 米田 光宏
問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 財務経理本部長 (氏名) 沼畑 正輝 (TEL) 03-6897-6400
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無 : 有
決算説明会開催の有無 : 有

(百万円未満切捨て)

1. 2026年9月期第3四半期の連結業績(2025年10月1日～2026年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年9月期第3四半期	13,338	△2.6	702	1.5	711	1.3	464	1.9
2025年9月期第3四半期	13,694	14.6	692	27.7	702	29.8	455	△3.6

(注) 包括利益 2026年9月期第3四半期 462百万円(4.3%) 2025年9月期第3四半期 443百万円(△5.7%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
2026年9月期第3四半期	円 銭 55.68	円 銭 —
2025年9月期第3四半期	53.91	—

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益は、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
2026年9月期第3四半期	百万円 4,792	百万円 2,444	% 49.9
2025年9月期	4,443	2,061	45.2

(参考) 自己資本 2026年9月期第3四半期 2,392百万円 2025年9月期 2,008百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年9月期	—	0.00	—	14.00	14.00
2026年9月期	—	0.00	—	—	—
2026年9月期(予想)	—	—	—	20.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2026年9月期の連結業績予想(2025年10月1日～2026年9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
通 期	20,500	12.2	1,060	20.8	1,060	18.1	689	34.7

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026年9月期3Q	8,692,622株	2025年9月期	8,692,622株
② 期末自己株式数	2026年9月期3Q	356,586株	2025年9月期	395,202株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2026年9月期3Q	8,334,056株	2025年9月期3Q	8,446,233株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来予測情報の適切な利用に関する説明）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、現時点で入手している情報に基づき当社が判断した予想であり、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 経営成績等の概況（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期連結累計期間の経営成績の概況	2
(2) 当四半期連結累計期間の財政状態の概況	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(セグメント情報等の注記)	8
(収益認識に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	11

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期連結累計期間の経営成績の概況

当第3四半期連結累計期間における我が国経済は、雇用・所得環境の改善や企業の設備投資意欲等を背景に、緩やかな回復基調で推移いたしました。一方で、物価上昇の長期化、円安や原材料・エネルギー価格の高止まり、金利上昇への警戒感、海外経済及び地政学リスクの影響等により、企業収益や個人消費の先行きについては、引き続き慎重に見極める必要がある状況が続いております。

企業部門においては、デジタル化、省力化、AI・半導体関連等を中心とする投資需要が景況感を下支えする一方、仕入価格や人件費、物流費等の上昇により、収益面では業種・企業規模によって濃淡がみられる状況となっております。日本銀行の2026年6月短観では、大企業製造業の業況判断DIが前回調査から5ポイント改善し22、大企業非製造業も1ポイント改善し37となるなど、足元の業況感は底堅く推移している一方、先行きについてはいずれも悪化見込みとなっております、企業の見通しには一定の慎重さが残っております。

このような経済環境を背景に、企業においては、コスト上昇への対応、業務効率化、収益性の維持・改善が重要な経営課題となっております。採用活動においても、構造的な労働力不足を背景に一定の需要は継続しながらも、費用対効果を重視する傾向を強めており、従来型の求人広告出稿に依存した手法から、採用成果の可視化、運用効率の改善、継続的な応募導線の最適化を重視する方向へ、徐々に軸足を移しつつあります。

このような環境のもと、当社グループは、「2030年50億時間の労働需給ギャップ解消」を社会課題として掲げ、採用コンサルティング、採用業務代行、DXリクルーティング、人材派遣・紹介等のサービス提供を通じて、企業の人材確保及び採用活動の最適化を支援してまいりました。当第3四半期連結会計期間においては、自社求人ページへのWEBマーケティング採用を中心とするOMR（オウンドメディアリクルーティング）売上は前年同期比13.4%伸長し、従来型求人広告を中心としたPMR（ペイドメディアリクルーティング）売上については、前年同期比で減収しているものの、新規顧客獲得や採用需要そのものの高まりにより減収幅は縮小し、連結売上高の前年同期比は2.6%減と中間期決算時の3.3%減に比べ0.7pt復調する結果となりました。また、スタッフィングセグメントにおいて収益力向上により第3四半期会計期間で1百万円の黒字となり、第3四半期累計期間の増益に寄与しました。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高13,338百万円（前年同期比2.6%減）、営業利益702百万円（前年同期比1.5%増）、経常利益711百万円（前年同期比1.3%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益464百万円（前年同期比1.9%増）となりました。

当社グループの各セグメント別の業績は以下のとおりであります。

なお、第1四半期連結会計期間より報告セグメントの区分を変更しており、以下の前年同期比較については、前年同期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。詳細は、「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 （3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（セグメント情報等の注記）」に記載のとおりであります。

(ヒューマンキャピタル事業)

ヒューマンキャピタル事業におきましては、企業の採用活動を総合的に支援する「RPOサービス領域」、ITテクノロジーを駆使した人材マッチングサービスを提供する「DXリクルーティング領域」、多様な就業ニーズに対応した様々な求人メディアサービスを提供する「セグメントメディア領域」等があります。

第3四半期連結累計期間においては、前年同期に発生した特需の反動及びRPOサービスにおけるサービス構成の変化により、売上高は前年同期を下回りました。一方で、PMRからOMRへの移行が進展したことに加え、業務効率化や販管費の最適化等に取り組んだことにより、セグメント利益は前年同期を上回りました。

PMR売上の減少幅については縮小しておりますが、OMR売上は前年同期比で増加しており、RPOサービス売上に占めるOMRの構成比はおよそ半分で安定しています。OMRは応募導線改善、広告運用、歩留まり改善等を継続的に支援する領域であり、OMRの売上総利益率がPMRを上回る高収益領域であります。そのため、売上高の減少影響はあったものの、収益性の改善に資するサービス構成への移行が増益に寄与する結果となりました。

これらの結果、ヒューマンキャピタル事業における売上高は10,131百万円（前年同期比5.4%減）、営業利益は1,427百万円（前年同期比2.1%増）となりました。

(スタッフィング事業)

スタッフィング事業におきましては、人材派遣及び日々紹介を行う派遣・紹介領域、派遣スタッフの研修店舗を兼ねたコンビニ店舗を運営するコンビニ領域があります。

当第3四半期連結会計期間においては、価格改定や高収益案件への集中など収益力向上のための構造改革が奏功し、1百万円の黒字へと転換しました。これまで新規投資事業と位置付けていた派遣事業においては、案件数の規模追求が完了し、収益化フェーズへの移行を開始し、また30社超の価格改定を実施しました。人材紹介事業においては、規模と紹介単価による案件精査の末、高収益案件へ集中することで収益力が向上しております。加えて、採用効率化によるスタッフ採用費用の縮小により増益および黒字化を実現しました。

これらの結果、スタッフィング事業における売上高は3,249百万円（前年同期比5.0%増）、営業損失は34百万円（前年同期は66百万円の損失）となりました。

(その他事業)

その他事業におきましては、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、本社部門所管のその他の収益を獲得する事業活動等であります。

その他事業における売上高は51百万円（前年同期比45.8%減）、営業損失は690百万円（前年同期は639百万円の損失）となりました。

(2) 当四半期連結累計期間の財政状態の概況

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末と比べ348百万円増加し、4,792百万円となりました。これは主に現金及び預金が475百万円増加した一方で、売掛金が104百万円減少したことによるものです。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末と比べ33百万円減少し、2,347百万円となりました。これは主に短期借入金が増加した一方で、1年内返済予定の長期借入金、未払法人税等、賞与引当金、買掛金、流動負債のその他に含まれる契約負債、未払消費税等が減少したことによるものです。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末と比べ382百万円増加し、2,444百万円となりました。これは主に利益剰余金が増加したことや、自己株式の処分により24百万円増加したことによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年9月期の業績予想につきましては、概ね計画通りに推移しており、2025年11月10日に公表いたしました通期の業績見通しに変更ありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2026年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,148,474	1,623,954
売掛金	1,757,790	1,652,973
商品	57,319	68,029
未収入金	198,510	221,614
その他	151,944	147,708
貸倒引当金	△26,230	△24,558
流動資産合計	3,287,809	3,689,722
固定資産		
有形固定資産	109,640	107,260
無形固定資産		
のれん	222,232	187,143
顧客関連資産	420,207	353,858
その他	85,069	76,970
無形固定資産合計	727,509	617,973
投資その他の資産		
その他	318,860	377,523
貸倒引当金	△350	△350
投資その他の資産合計	318,510	377,173
固定資産合計	1,155,660	1,102,407
資産合計	4,443,469	4,792,129

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2026年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	558,191	507,685
短期借入金	10,000	400,000
1年内返済予定の長期借入金	139,112	15,050
未払法人税等	216,237	98,145
賞与引当金	120,484	49,839
未払金	813,441	811,795
その他	489,335	427,935
流動負債合計	2,346,802	2,310,451
固定負債		
長期借入金	10,052	-
その他	24,910	37,378
固定負債合計	34,962	37,378
負債合計	2,381,764	2,347,830
純資産の部		
株主資本		
資本金	705,768	705,768
資本剰余金	613,887	625,679
利益剰余金	936,549	1,284,437
自己株式	△247,648	△223,450
株主資本合計	2,008,556	2,392,434
非支配株主持分	53,149	51,864
純資産合計	2,061,705	2,444,299
負債純資産合計	4,443,469	4,792,129

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年10月1日 至 2025年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年10月1日 至 2026年6月30日)
売上高	13,694,634	13,338,453
売上原価	7,722,662	7,326,514
売上総利益	5,971,972	6,011,938
販売費及び一般管理費	5,279,664	5,309,411
営業利益	692,308	702,527
営業外収益		
受取利息及び配当金	850	869
助成金収入	61	-
受取手数料	12,405	5,780
還付消費税等	4,540	-
受取和解金	-	2,130
その他	2,362	4,372
営業外収益合計	20,219	13,151
営業外費用		
支払利息	5,523	2,121
支払手数料	2,738	1,565
助成金返還損	1,904	-
その他	337	665
営業外費用合計	10,503	4,352
経常利益	702,024	711,326
特別利益		
固定資産売却益	395	-
特別利益合計	395	-
特別損失		
固定資産除却損	3,471	230
特別損失合計	3,471	230
税金等調整前四半期純利益	698,948	711,095
法人税、住民税及び事業税	210,738	229,177
法人税等調整額	44,722	19,150
法人税等合計	255,460	248,327
四半期純利益	443,487	462,767
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△11,811	△1,284
親会社株主に帰属する四半期純利益	455,299	464,052

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年10月1日 至 2025年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年10月1日 至 2026年6月30日)
四半期純利益	443,487	462,767
四半期包括利益	443,487	462,767
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	455,299	464,052
非支配株主に係る四半期包括利益	△11,811	△1,284

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(セグメント情報等の注記)

I 前第3四半期連結累計期間(自 2024年10月1日 至 2025年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	ヒューマン キャピタル事業	スタッフイング 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	10,676,442	2,995,047	13,671,489	23,145	13,694,634
セグメント間の内部 売上高又は振替高	37,894	99,696	137,590	71,747	209,338
計	10,714,336	3,094,743	13,809,080	94,892	13,903,973
セグメント利益又は損失(△)	1,398,657	△66,973	1,331,683	△639,469	692,214

(注) 「その他」の区分は、本社部門所管のその他の収益を獲得する事業活動等であります。管理業務受託事業等が含まれます。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	1,331,683
「その他」の区分の損失(△)	△639,469
セグメント間取引消去	93
四半期連結損益計算書の営業利益	692,308

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「その他」セグメントにおいて、第1四半期連結会計期間に株式会社アドバンスニュースの全株式を取得し、新たに連結の範囲に含めております。当該事象によるのれんの増加額は、22,883千円であります。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自 2025年10月1日 至 2026年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	ヒューマン キャピタル事業	スタッフイング 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	10,106,126	3,204,696	13,310,823	27,630	13,338,453
セグメント間の内部 売上高又は振替高	25,261	45,028	70,290	23,759	94,049
計	10,131,388	3,249,725	13,381,113	51,390	13,432,503
セグメント利益又は損失(△)	1,427,947	△34,982	1,392,964	△690,014	702,950

(注) 「その他」の区分は、本社部門所管のその他の収益を獲得する事業活動等であります。管理業務受託事業等が含まれます。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	1,392,964
「その他」の区分の損失(△)	△690,014
セグメント間取引消去	△422
四半期連結損益計算書の営業利益	702,527

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社の完全子会社である株式会社ツナグ・グローバルエージェントの、2025年10月1日における当社への吸収分割に伴い、当社の経営管理体制全般の見直しを図りました。その結果、従来「スタッフイング事業」に含まれていた一部事業を、「ヒューマンキャピタル事業」に移行しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の区分方法により作成したものを記載しております。

(収益認識に関する注記)

1. 顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前第3四半期連結累計期間(自 2024年10月1日 至 2025年6月30日)

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	ヒューマン キャピタル事業	スタッフィング 事業	計		
RPOサービス領域	4,479,374	—	4,479,374	—	4,479,374
DXリクルーティング領域	2,886,405	—	2,886,405	—	2,886,405
セグメントメディア領域	2,285,061	—	2,285,061	—	2,285,061
業務代行領域	860,007	—	860,007	—	860,007
派遣・紹介領域	—	958,363	958,363	—	958,363
コンビニ領域	—	2,036,684	2,036,684	—	2,036,684
その他	165,594	—	165,594	23,145	188,739
顧客との契約から生じる収益	10,676,442	2,995,047	13,671,489	23,145	13,694,634
外部顧客への売上高	10,676,442	2,995,047	13,671,489	23,145	13,694,634

(注) 「その他」の区分は、本社部門所管のその他の収益を獲得する事業活動等であります。

当第3四半期連結累計期間(自 2025年10月1日 至 2026年6月30日)

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	ヒューマン キャピタル事業	スタッフィング 事業	計		
RPOサービス領域	3,720,272	—	3,720,272	—	3,720,272
DXリクルーティング領域	3,470,136	—	3,470,136	—	3,470,136
セグメントメディア領域	2,115,502	—	2,115,502	—	2,115,502
業務代行領域	670,017	—	670,017	—	670,017
派遣・紹介領域	—	1,112,664	1,112,664	—	1,112,664
コンビニ領域	—	2,092,032	2,092,032	—	2,092,032
その他	130,197	—	130,197	27,630	157,828
顧客との契約から生じる収益	10,106,126	3,204,696	13,310,823	27,630	13,338,453
外部顧客への売上高	10,106,126	3,204,696	13,310,823	27,630	13,338,453

(注) 「その他」の区分は、本社部門所管のその他の収益を獲得する事業活動等であります。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より報告セグメントの区分を変更しております。詳細は、「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 (セグメント情報等の注記)」に記載のとおりであります。なお、前第3四半期連結累計期間の顧客との契約から生じる収益を分解した情報については、変更後の区分方法により作成したものを記載しております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年10月1日 至 2025年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年10月1日 至 2026年6月30日)
減価償却費	140,562 千円	126,271 千円
のれんの償却額	49,686 千円	35,089 千円